

特別講演 1

検査を活かす

下澤 達雄

国際医療福祉大学大学院
医学系研究科臨床検査医学 教授



<略歴>

学歴

昭和63年3月筑波大学医学専門学群卒業
平成5年4月東京大学大学院臨床医学系博士課程入学
平成9年3月同課程修了。博士（医学）取得

職歴

昭和63年6月東京大学附属病院内科研修医
平成元年6月東京都老人医療センター内科研修医
平成2年9月東京大学医学部附属病院分院、海洋研究所助手併任
平成5年から9年大学院在籍
平成9年4月東京大学医学部附属病院分院、海洋研究所助手併任
平成13年4月東京大学医学部腎臓・内分泌内科助手に配置換え
平成13年7月東京大学医学部附属病院検査部助手に配置換え
平成17年8月東京大学医学部附属病院検査部 講師
平成29年4月国際医療福祉大学医学部臨床検査医学 教授
平成30年4月国際医療福祉大学大学院医学系臨床検査医学 教授
令和元年4月河北医科大学医学部客員教授
令和2年4月国際医療福祉大学成田病院臨床検査科部長兼任
令和6年4月カザフスタン国立大学医学部客員教授

資格

平成3年 日本内科学会認定医（3294）
平成9年 日本老年医学会認定老年病専門医（201017）
平成19年 日本臨床検査医学会専門医（724）
平成20年 日本高血圧学会専門医（108）、指導医（160）
平成23年 日本内分泌学会専門医（1110061）、指導医（3110012）
平成27年 日本内科学会総合内科専門医（19523）
平成29年 日本老年医学会指導医（00128）

受賞歴

平成13年度日本高血圧学会 Young Investigator Award 受賞

平成16年日本内分泌学会研究奨励賞

平成17年日本心血管内分泌代謝学会高峰讓吉研究奨励賞

平成24年日本臨床検査医学会学術賞

学会活動

理事；日本高血圧学会 日本臨床検査医学会 日本心血管内分泌代謝学会
日本心脈管作動物質学会 日本機能性食品医用学会

評議員；日本臨床検査医学会 日本高血圧学会 日本腎臓病学会 日本内分泌学会、
日本老年医学会 日本心血管内分泌代謝学会 日本未病システム学会
日本心脈管作動物質学会

Fellow; International Society of Hypertension, American Heart Association

Hypertension Research Associate Editor

Laboratory Medicine International Deputy Editor

Journal of Laboratory and Precision Medicine

Editor in PLOS ONE International Heart Journal Frontiers in Endocrinology

その他の活動

一般社団法人日本クラリネット協会副理事長

アルテハイマート合奏団 事務局長

一般財団法人瀬木博尚記念芸術文化振興会 評議員

抄録

診断の第一歩は五感を使って患者を観察することである。定性的な観察をさらに患者に関わる医療従事者で共有するために定量性をもち、誰が観察しても同じような結果を出せる検査が必要となる。例えば写真やX線写真の濃淡を数値化することで病変部位を定量することなどはこれからのAIの時代にはさらにニーズが高まる検査と言えよう。本講演では1検査の精度、品質の保証について2感度特異度を考えた適切な検査の選択3質量分析、遺伝子解析、AIなどを用いた検査の未来についてDiscussionしたい。

症例 66歳女性 高血圧、糖尿病、歯周病

子どもの頃より齲歯が多かったが、歯科指導により安定していた。50歳より高血圧、糖尿病にて近医受診。内服加療と食事療法が行われていたが62歳時に脳梗塞発症。右手に軽い麻痺が生じたことから歯磨きが充分出来なくなり、歯周病に悩まされるようになった。

このような患者の治療を行うにあたり、どのような検査が必要になるかを考えてみたい。